
影番

E端子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

影番

【コード】

N3449P

【作者名】

E端子

【あらすじ】

ある喫茶店での1シーン

(前書き)

性犯罪ニュースに心が痛んだ時はこんな妄想をしています。妄想じや何も解決しないけど。妄想じ

休日によくある風景だった。

私は友人と喫茶店でケーキセットを頼み、ケーキを待ちながら紅茶を片手に談笑していた。

話題は気楽なもので、テレビの話や話題のお笑い芸人の話、目の前にいる友人の幼い息子の話など、尽きる事は無かった。

「…でねー…ねえ、聞いている？」

視界がぼやけた事に気を取られていた私は、慌てて答えた。

「ちゃんと聞いているよ。あ、ちょっとトイレ行ってくるね」

「いつてらっしやーい」

そう言っただけで私は立ち上がり、やや速足で喫茶店のトイレに向かった。今一緒にいるのは友人だから「トイレをギリギリまで我慢するキャラ」として振る舞えるのが有難かった。

個室に駆け込んだ私は鍵を閉め、扉に背中を預けて目を閉じた。

閉じた瞼の裏に浮かび上がったのは、見知らぬ男女だった。

昼間なのに薄暗い雑居ビルの隙間を、彼女は懸命に走っていた。彼女は男性に腕を掴まれてしまったが、まだ何も起こってはいないとわかり、私は眉間の皺が少し緩んだような気がした。それでも、事は急がなければいけない。

私は、男性から局部が分離する様子をイメージした。

…しかし目の前の光景は変わらず、女性はずいに押し倒されてしまった。幸か不幸か、彼女の叫び声も男性の声も私には聞こえてこない。聞こえてしまえば、きつと焦ってうまくいなくなる。私は念じるように先の様子を想像し、神に祈るように両手を組んだ。

『彼の局部よ もげてしまえ』

目の前の光景に映る男性に変化が現れた。

左手で彼女の両手の自由を奪い、右手で自身のズボンのチャックを下ろした彼は、息子をうまくつかめない事に違和感を覚えた。

慌てて下着を下ろした途端、何か落ちて転がり、立膝状態の彼の膝に当たった。

それは、彼の一部であるはずの息子だった。

その隙をついた彼女は彼の左手を振り払い、路地の向こうへ走り去った。一方彼は自身の身に起こった事を理解できず、親離れた息子をただ眺めていた。

もう大丈夫かな

目をあけると、タイルの壁と白いタンクが目に入った。

そこは、さっき駆け込んだトイレの個室。目を閉じていたせいで、淡い水色のタイルですら少し眩しかった。

ついでに用を足した私は、何食わぬ顔で友人の待つ席へ戻った。

ケーキが来ていたらしく、友人は2口食べたところだった。

「ただいまー」

「おかえりー。ケーキ来てるよ」

席に着くなり、私はチーズケーキを一片口に入れた。

濃厚なチーズの風味とふんわりした口当たりで頬が緩む。

「で、何の話だったっけ？」

ケーキがなくなっても話は尽きなかったが、友人は息子の世話があるため、話は切りのいいところで終わることにした。

レジに向かう途中、カウンターの側に置いてある小さなテレビから「臨時ニュース」という単語が聞こえてきた。見ないように意識しているはずなのに、つい耳をそばだててしまう。

「最近変わった事件があるよねー。事件を未遂にしちゃうとかすくない？強姦限定だけど」

「そうだね。でもストーカーみたいで気持ち悪くない？」

「確かに。どうやって見つけてるんだろうね」

視界がぼやけるのが合図だという事は私しか知らない。

なぜこんな事が起こるのかは、私自身も理解できないけれど。

勘定を済ませる間、友人がテレビを見ているので私もつられてテレビに目を向ける。画面の中では慎ましい印象の女性キャスターがニュースの解説をしていた。

「追われていた女性」は、どうやら打ち身程度で済んだようだ。

(後書き)

もしこれが現実には起こったとしたら、傷つく女性はぐっと減るはず。
局部分離が良い事が悪いことかは置いといて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3449p/>

影番

2010年12月7日01時13分発行